

第3学年A組 音楽科学習指導案

授 業 者 大山 光子
研 究 協 力 者 吉澤 恭子

1 題材名 きき合って 合わせて ～重ねて歌おう～

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

音楽が流れると一緒に口ずさんだり、曲の感じに合わせて体を動かしたりするなど、音楽の好きな子どもが多い。低学年では、拍の流れにのってみんなで合わせて歌ったり、役割を決めてよびかけっこで歌ったりする経験をしてきている。3年生になってからは、毎時間継続的に発声を行い一人ずつ声を出す時間を設けて、みんなの声を聴き合う活動に取り組むことで、きれいな声を出したいという気持ちが高まってきている。前題材「すてきな声」では、高い音域の音をきれいな響きで歌おうとする姿が見られた。また、パートナーソングを経験し、違う旋律どうしの重ね合いを楽しむ姿も見られた。しかし、相手につられないようにと大きな声で歌ってしまう子どももいて、お互いの声を聴き合いながら合わせて歌う力については十分とは言えない。

(2) 題材について

本題材では、**互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌うという資質・能力**を高めることを目指す。そのため、子どもたちが音や声の重なりに着目しながら、お互いの音や声をよく聴き合い、重なり合うよさを意識して感じ、自然で無理のない歌い方ができることを大切にする。

教材「ありがとうの花」は、曲の一部分が二部合唱になっている合唱曲である。前半の旋律は、シンコーペーションを含む細かい音符が連なるので、はっきりと発音しながら歌えるようにしたい。後半の旋律は、のびのびとした声でゆったりと歌うことで、曲想の変化を味わうことができる。また、後半部分は上声部と下声部に分かれ、二つの旋律が違う動きをするので、お互いの声を聴き合いやすい構成になっている。歌詞の意味を考えながら歌うことで、「ありがとう」のあたたかい気持ちも表現できる曲である。

歌詞の内容や自分の気持ちを歌声で伝えようとする意識を高めながら、声が重なり合う美しさを意識し、響きのある遠くまで届く声や歌い方を身に付け、生活の中に音楽を活かそうとする姿を期待してこの題材を設定した。

(3) 指導について

本題材では、先述の資質・能力を育むために、**音や声の重なりに着目し、声が重なる楽しさを味わいながら、声の出し方や歌い方を考えるという「見方・考え方」**を働かせた学習活動を、題材を通して繰り返し行う。

子どもたちは、これまでに曲の前半と後半を重ねて歌うパートナーソングや部分的に二つの音を重ねる二重唱を経験したことで、声や音が重なるよさを感じ、重ねて歌うことにあるこがれをもっている。そのあこがれを大切に、子ども自身の学習目標へとつなげていく。

曲との出会いの場面では、合唱部の演奏を視聴し、歌詞の意味や曲想からどんな歌い方をしたらよいか考えを出し合いながら、呼吸や声の響きに気を付けて歌えるようにしたい。

曲の後半の二部に分かれる部分で二つの旋律を重ねる活動のときには、少人数で歌ったり聴いたりする場を設けたり、一部分の音の重なりからフレーズへと広げていったり、きれいに重なり合う方法を試したりしていく。活動の中で、子どもたちから出てきた歌い方で気を付けることを、「歌ポイント」としてまとめていく。そして、互いの歌声が一つになったり、重なり合ってきれいに響き合ったりすることに気付けるように、声の出し方を意識しながらお互いの歌声を聴き合う活動や録画したものを視聴する場を設ける。

題材の終末では、学年音楽の時間を設けて、各学級の歌声を発表し聴き合う活動を行い、声を合わせて歌い、伝え、つながるという体験をさせたい。友達の歌声を聴くことから、音の重なりを感じ取ったり、合わせることの楽しさを味わったりするよさを感じることができるようにし、お互いの声を聴き合って歌う姿へとつなげていきたい。そして、更にたくさんの人たちに自分たちの歌声を届けていきたい、もっと歌いたいという思いが生まれてくることを期待している。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 音や声の重なりに着目し、お互いの声や旋律を聴き合い、呼吸や発音の仕方に気を付け自然で無理のない歌い方で、声を合わせて楽しく歌うことができる。 〈A-11・A-14〉
- (2) 友達と声を合わせて歌うよさを感じ取り、声が重なる美しさを意識しながら、声の出し方や歌い方を工夫することができる。 〈A-2・ア〉
- (3) 音や声の重なりに興味・関心を持ち、友達と一緒に表現活動や鑑賞の学習に進んで取り組もうとする。 〈〔共通事項〕1・ア・エ〉

4 題材の構想（総時数4時間）※「見方・考え方」を働かせた学習活動

歌でよびかけっこ（2年） すてきな声で（3年）

◎本単元で育む主な資質・能力
互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う。

(A-14)

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	<p>(1) 《ありがとうの花》を聴き曲の感じをつかみ、声の出し方や歌い方に気を付けて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい感じがする曲だね。 ・とちゅうから二つのパートに分かれているよ。 ・ドレミの歌みたいだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに歌ってきた曲と比べて聴く活動を設けることで、曲想や音の重なりを考え、歌うことができるようにする。 ・二部合唱のよさや楽しさを実感できるように、合唱部が歌う《ありがとうの花》を視聴する場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の重なりや響き合う美しさを感じながら聴いている。(A-2・[共通事項] 1・エ) ・呼吸や発音の仕方に気を付けて歌っている。(A-11)
<p>学習課題 よくきき合い、きれいに重ねて歌おう。</p>			
2 本時	<p>(2) 《ありがとうの花》の後半部分を、声の出し方や歌い方に気を付けて二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下のパートのルーがきれいで好きだな。 ・きれいに重なるかな。 ・バランスよく声を出さないといけないよ。 ・ハモっているね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の重なりを意識できるように、主旋律と副次的な旋律の曲想の違いについて確認し、繰り返し歌うようにする。 ・声の重なりを意識し聴き合うことができるように、「演奏する役」や「聴く役」に分かれて歌ったり聴いたりしながら「対話」する場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や声の重なりに興味・関心を持ち、歌ったりしている。(A-11・ア)
3	<p>(3) 《ありがとうの花》を、声の重なり気に気を付けて二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合わせるためには、よく聴き合うことが大事だね。 ・2チームの歌声はしっかりそろっているよ。 ・すごいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聴き合う大切さや各声部の役割が実感できるように、どちらの旋律も歌うようにする。 ・お互いの声を聴いて声の重なり気に気を付けて歌うことができるようになってきているか、前時までの歌声と聴き比べをする場を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの声や旋律を聴き合い、声を合わせて歌っている。(A-14・ア)
4	<p>(4) これまでの学習をふり返り、《ありがとうの花》を学級ごとに発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B組さんは、みんなの声がそろっているよ。 ・みんなで歌うと、迫力があるね。 ・もっと歌いたいな。だれかに聴いてほしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの表現や工夫を認め合うことができるように、聴く視点を決めて共有し、聴き合うようにする。 ・合わせる、伝える、つながることの心地よさを実感し、生活の中に音楽を活かそうとする意欲の向上を図るために、今後と同様の場を設けていくことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や声の重なりを意識し、呼吸や発音の仕方に気を付け、声を合わせて歌っている。(A-11・14・ア・エ・[共通事項] 1)

○本題材の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
音や声の重なりに着目し、声が重なる楽しさを味わいながら、声の出し方や歌い方を考える。

くり返して 重ねて（3年） 気持ちを 合わせて（3年）

5 本時の実際 (2 / 4)

(1) ねらい お互いの歌声を聴き、音の重なりを意識しながら、声の出し方や歌い方に気を付けて歌うことができる。 (A-11・ア)

(2) 展開 ○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
6分 4分	<p>① 発声練習をし、既習曲を歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢に気を付けよう。 ・きれいに重なったかな。 <p>② 前時までの学習をふり返り、学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>学習課題 おたがいの声をよくきいて、重ねて歌おう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・響く声を意識できるようにサークル状に並び、向かい合った友達の表情を見ながら、遠くに声を届けるイメージで歌うように助言する。 ・既習曲については、音が重なる部分について気を付けるように声かけをし、本時の学習へとつなげる。 ・音の重なり方を確かめるポイントを示す。
30分	<p>③ 《ありがとうの花》の後半部分を二部合唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉のところと、ルーのところがあるよね。 ・ぼくは、上のほうが好きだな。 ・下のルーは、きれいに響かせないとね。 ・きれいに重ねるって、難しいな。 ・人数が増えると安心して歌えるなあ。 ・始めるとき、しっかりと合わせないといけないよ。 ・1チームは、途中でずれてしまったよ。 ・2チームは、上のパートが聞こえなくなったよ。 ・バランスをよくするために、ちゃんと声を出さなくちゃ。 ・みんなで合わせて歌うと、気持ちがいいね。 ・音が重なるって、ハモってることだよ。 ・正しい音で歌わないといけないんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上声部と下声部の音の重なりが視覚的にも捉えられるように、拡大楽譜を準備する。 ・上声部は、リズムによって言葉をはっきりと発音して歌うこと、下声部は、きれいに響く声でなめらかに歌うことなど、各声部の大切な「歌ポイント」(歌うとき気を付けたいこと)を確認し共有する。 <p>○一人一人が安心して合唱することができるように、各声部の音やフレーズを取り出して、音の重なりや響き合いを確かめる場を設ける。(ペア→グループ)</p> <p>○音の重なりを意識して歌ったり聴いたりできるように、全体を「演奏する役」と「聴く役」に分け、交互に活動し感想を交換したり、アドバイスをし合ったりする場を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴く耳を育てるため、正しい音の重なりで合唱することができたときは、すぐに全体で共有することにより、よりよい音の重なりへの意識を高めていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>音や声の重なりに着目して、フレーズごとの重なる響きや各声部の声量のバランスを意識しながら、声の出し方や歌い方に気を付けて歌っている。 (A-11・ア) (歌っている表情や様子・歌声・発言)</p> </div>
5分	<p>④ 本時の学習をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上手に歌えるようになりたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の活動では、《ありがとうの花》を最初から通して二部合唱し、発表し合うことを伝え、意欲付けを図る。